

(様式第1号)

平成 30年 5月 2日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 様

領 域 名 : 医療に関する領域
科 目 名 : 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I
単 位 数 : 2
認証申請する研修の名称 : 認定介護福祉士養成研修

団体名 : 公益社団法人
日本介護福祉士養成施設協会
群馬県介護福祉士養成校協議会 一般社団法人 群馬県介護福祉士会
団体事務所 : 〒371-0823 〒371-8525
の所在地 群馬県前橋市川曲町 191-1 群馬県前橋市新前橋町 13-12
電話 : 025-253-0294 027-255-6226
FAX : 027-254-0294 027-255-6173
E-mail : shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : 鈴木 利定 ㊞

団体代表者 : 小池 昭雅 ㊞

申請責任者 : 白井 幸久

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙1～3)

<機構使用欄>

| | |
|-------|--|
| 受付 | |
| 確認 | |
| 委員付託 | |
| 追加連絡 | |
| 評価報告 | |
| 理事会承認 | |
| 認証番号 | |

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

| | |
|------------------------------|---|
| 申請年月日 | 平成30年 5月2日 |
| 申請団体名 | 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 群馬県介護福祉士養成校協議会 一般社団法人 群馬県介護福祉士会 |
| 申請団体代表者氏名 | 鈴木 利定 小池 昭雅 |
| 申請責任者職名 申請責任者氏名 | 群馬医療福祉大学 短期大学部 教授 白井 幸久 |
| 団体住所 同 Tel・Fax メールアドレス | 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会 群馬県介護福祉士養成校協議会 〒371-0823 群馬県前橋市川曲町 191-1 Tel : (025)-(253)-(0294) Fax : (027)-(254)-(0294) E-mail <u>shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp</u> 一般社団法人 群馬県介護福祉士会 〒371-8525 群馬県前橋市新前橋町 13-12 Tel : (027)-(255)-(6226) Fax : (027)-(255)-(6173) |
| 申請対象の領域 | 領域名 : 医療に関する領域 |
| 科目名 (単位数) | 科目名 : 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I (2 単位) |
| 申請する研修名 | 認定介護福祉士養成研修 |
| 研修認証実績 | 年 認証番号 () 年 認証番号 () 年 認証番号 () |
| その他特記事項 | |

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

| | | |
|----------------|---|--|
| 申請対象の領域 | 医療に関する領域 | |
| 科目名 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | |
| (1) 提供する研修について | | |
| 研修名 | 認定介護福祉士養成研修 | |
| 教育目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・認定介護福祉士として、生活支援の場面で必要となる医療的ケアや判断及び医療職等との連携の際の根拠となる医療に関する基礎的な知識を獲得させる。 | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援場面で必要となる、解剖生理、病態生理、症候、疾病等の基礎的な内容を理解し、他者に説明できる。 ・疾患・障害等について、その機序、主な症状、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できる。 | |
| 研修内容（研修プログラム） | 含むべき内容 | 研修プログラム |
| | <p>○生活支援場面で必要となる解剖生理、病態生理、症候、疾病等に関する基礎的な知識</p> <p>【「疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I」で扱う疾患・症候】 発熱、脱水、悪心、嘔吐、下痢、便秘、失禁、頻尿、浮腫、腹痛、食欲不振、咳、痰、喘鳴、呼吸困難、誤嚥、動悸、不整脈、胸痛、難聴、視力障害、眩暈、麻痺、振戦、腰痛、膝痛、不眠、褥瘡</p> <p>○疾患・障害等において、生活支援に必要な基礎的な知識 各疾患・障害等において次の内容をふまえる</p> <p>①機序、症状、診断・治療、経過と予後 ②主な薬の知識（作用と副作用） ③リスクと対応 ④生活支援の留意点・観察ポイント ⑤他職種と共有すべき情報等</p> <p>【「疾患・障害等のある人への生活支援・連携</p> | <p>・事前課題① 5時間</p> <p>次の下記に示す症状がある人と関連する疾患と特徴、症状に関連する障害と特徴をまとめて持参すること。</p> <p><症状>A4 レポート用紙 10 枚以上 発熱、脱水、悪心、嘔吐、下痢、便秘、失禁、頻尿、浮腫、腹痛、食欲不振、咳、痰、喘鳴、呼吸困難、誤嚥、動悸、不整脈、胸痛、難聴、視力障害、眩暈、麻痺、振戦、腰痛、膝痛、不眠、褥瘡</p> <p>・事前課題② 5時間</p> <p>①ある利用者の病気や障害の既往歴や現在の病気の症状、診断、治療、経過と予後について ②主な薬の知識（作用と副作用） ③リスクと対応 ④生活支援の留意点・観察ポイント ⑤他職種と共有すべき情報等を聞き取りまとめて持参すること。</p> <p><課題2>A4 レポート用紙 10 枚以上</p> <p>・対象とする疾患は、下記①～⑧までである。</p> <p>①神経筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）等） ②脳血管疾患（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血、一過性脳虚血発作（TIA）等） ・高次脳機能障害 ③循環器系疾患（慢性虚血性心疾患） ・狭心症</p> |

| | |
|---|--|
| <p>【I】で扱う疾患・障害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経系疾患 <ul style="list-style-type: none"> ①神経筋疾患（パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症（ALS）等） ②脳血管疾患（脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血、一過性脳虚血発作（TIA）等） <ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害 ・循環器系疾患（慢性虚血性心疾患） <ul style="list-style-type: none"> ・狭心症 ・急性心筋梗塞 ・高血圧性疾患） ・呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患） <ul style="list-style-type: none"> ・誤嚥性肺炎 ・不顕性肺炎） ・代謝性疾患（脂質異常症・糖尿病） ・筋骨格系疾患 <ul style="list-style-type: none"> ①骨関節疾患（膝関節症、骨粗鬆症、関節リウマチ・腰部脊柱間狭窄症） ②高齢者に多い骨折等（大腿骨頸部骨折・橈骨遠位端骨折、腰椎圧迫骨折等） ・精神疾患（統合失調症、うつ病、せん妄、アルコール依存症候群、睡眠障害等） <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害（精神遅滞） ・発達障害 ・その他の疾患：老人性白内障、緑内障、老人性難聴 | <ul style="list-style-type: none"> ・急性心筋梗塞・高血圧性疾患） ④呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患） <ul style="list-style-type: none"> ・誤嚥性肺炎 ・不顕性肺炎） ・代謝性疾患（脂質異常症・糖尿病） ⑤筋骨格系疾患 ⑥骨関節疾患（膝関節症、骨粗鬆症、関節リウマチ・腰部脊柱間狭窄症） ⑦高齢者に多い骨折等（大腿骨頸部骨折・橈骨遠位端骨折、腰椎圧迫骨折等） ⑧精神疾患（統合失調症、うつ病、せん妄、アルコール依存症候群、睡眠障害等） <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害（精神遅滞） ・発達障害 ・その他の疾患：老人性白内障、緑内障、老人性難聴 <p>・講義①脳・神経系疾患（2時間） 高齢者によくある疾患と症状などの身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。</p> <p>・演習①脳・神経系疾患（2時間） 持参した事前課題①、②を使用して講義①の内容を参考にしながら演習を行い、介護現場で生かすフィジカルアセスメントについて各自の事例から確認する。</p> <p>・講義②呼吸・循環器系疾患（2時間） 高齢者によくある疾患と症状などの身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。</p> |
|---|--|

・演習②呼吸・循環器系疾患（2時間）
持参した事前課題①、②を使用して講義②の内容を参考にしながら演習を行い、介護現場で生かすフィジカルアセスメントについて各自の事例から確認する。

・講義③筋・骨格系疾患（1時間）
高齢者によくある疾患と症状などの身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。

・演習③筋・骨格系疾患（1時間）
持参した事前課題①、②を使用して講義③の内容を参考にしながら演習を行い、介護現場で生かすフィジカルアセスメントについて各自の事例から確認する。

・講義④消化器・感覚器系（1時間）
高齢者によくある疾患と症状などの身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。

・演習④消化器・感覚器系（1時間）
持参した事前課題①、②を使用して講義④の内容を参考にしながら演習を行い、介護現場で生かすフィジカルアセスメントについて各自の事例から確認する。

・講義⑤精神疾患（2時間）
高齢者によくある疾患と症状などの

| | | |
|----------------------|--|--|
| | | <p>身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義⑥リフレクション（1時間） 事前課題②のうち1つを選択して改めて省察（リフレクション）を行い、まとめなおすこと。また、今後の介護実践の方向性や職場でどのように応用、展開していけるか具体的な方法や計画について提案すること。 ・事後課題③（5時間） 事後活動 A4 レポート用紙に3枚でまとめること。 <p>*参考テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 山内豊明「介護現場で活かすフィジカルアセスメント 利用者の生命と生活を支える知識と技術」、中央法規、2016. 2) 白井孝子「改訂介護に使えるワンポイント医学知識」、中央法規、2011. |
| <p>研修方法</p> | <p>■通学課程 ■課題学習</p> <hr/> <p>○集合研修は講義と演習を組み合わせる。 ○課題学習は事前・事後課題としてレポート課題を課す。評価は担当講師が行う。</p> | |
| <p>研修時間</p> | <p>30 時間（集合研修 15 時間+課題学習 15 時間）</p> | |
| <p>修了要件</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 当該科目の対面授業の全課程に出席していること。 （出欠席・遅刻・早退の取り扱いは別紙4のとおり） 2. 事前・事後レポート、計画書等の提出の指示がある科目の場合、提出期限内に提出し合格していること。 3. 当該科目が示す修了評価において、C評価以上であること。 <p>*修了評価について 筆記試験及びレポート試験の評価は別紙5の評価基準を用いて実施する。</p> | |
| <p>講師要件（講師の選定基準）</p> | <p>*当該科目における十分な知識、専門性を有し、講師等の教育経験がある者 *補助者についても当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師などの教育経験がある者</p> | |
| <p>(2)受講者について</p> | | |

| | |
|--------------------|---|
| 受講対象 (受講要件) | 単位取得できるのは介護福祉士資格を有するものであること。 |
| 修了評価（習得 度、研修成果） | 50問の筆記試験で実施し、100点満点中60点以上で合格(修了)とする。 |
| (3)研修の環境条件 | |
| 定員（講師の配置 基準） | <p>30名(講師 1名) 演習時も同一の講師が行う。</p> <p>*講師1名。補助講師(ファシリテーター)の配置については、当該講師の授業運営に応じ、適切に配置する。</p> <p>*尚、その際には当該講師が意図したことを理解し、適切な介入ができる能力を有する者であり、受講生8～10名に対し1名を置くものとする。</p> |
| 開催場所（都道府 県） | 群馬県 |

コマシラバス 対面授業 15 回分

| 回数 | 科目名 (回ごとの項目) | 時間(分) | 内容 |
|----|-----------------------|-------|---|
| 1 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60 分 | 講義①脳・神経系疾患 (2 時間) 高齢者によくある疾患と症状などの身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。 |
| 2 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60 分 | 講義②脳・神経系疾患 高齢者によくある疾患と症状などの身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。 |
| 3 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60 分 | 演習①脳・神経系疾患 (2 時間) 持参した事前課題①②を使用して講義①の講義の内容を参考にしながら演習を行い、介護現場で生かすフィジカルアセスメントについて各自の事例から確認する。 |
| 4 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60 分 | 演習②脳・神経系疾患 持参した事前課題①、②を使用して講義①の講義の内容を参考にしながら演習を行い、介護現場で生かすフィジカルアセスメントについて各自の事例から確認する。 |
| 5 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60 分 | 講義①呼吸・循環器系疾患 (2 時間) 高齢者によくある疾患と症状などの身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。 |
| 6 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60 分 | 講義②呼吸・循環器系疾患 高齢者によくある疾患と症状などの身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。 |
| 7 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60 分 | 演習①呼吸・循環器系疾患 (2 時間) 持参した事前課題①、②を使用して講義②の内容を参考にしながら演習を行い、介護現場で生かすフィジカルアセスメントについて各自の事例から確認する。 |
| 8 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60 分 | 演習②呼吸・循環器系疾患 持参した事前課題①、②を使用して講義②内容を参考にしながら演習を行い、介護現場で生かすフィジカルアセスメントについて各自の事例から確認する。 |

| | | | |
|----|-----------------------|-----|--|
| 9 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60分 | 講義①筋・骨格系疾患（1時間） 高齢者によくある疾患と症状などの身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。 |
| 10 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60分 | 演習①筋・骨格系疾患（1時間） 持参した事前課題①、②を使用して講義③の内容を参考にしながら演習を行い、介護現場で生かすフィジカルアセスメントについて各自の事例から確認する。 |
| 11 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60分 | 講義①消化器・感覚器系（1時間） 高齢者によくある疾患と症状などの身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。 |
| 12 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60分 | 演習①消化器・感覚器系（1時間） 持参した事前課題①、②を使用して講義④の内容を参考にしながら演習を行い、介護現場で生かすフィジカルアセスメントについて各自の事例から確認する。 |
| 13 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60分 | 講義①精神疾患 高齢者によくある疾患と症状などの身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。 |
| 14 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60分 | 講義②精神疾患 高齢者によくある疾患と症状などの身体的な特徴とそれらの観察ポイントについて講義する。高齢者のフィジカルアセスメントを行ううえでの基礎的な知識となる。ここを押さえていないと正確なアセスメントができない。その上で疾患の機序、診断・治療、経過と予後等の生活支援に必要な基礎的な内容を理解し、他者に説明できるようにする。 |
| 15 | 疾患・障害等のある人への生活支援・連携 I | 60分 | 講義 リフレクション 事前課題②のうち1つを選択して改めて省察（リフレクション）を行い、まとめなおす。今後の介護実践の方向性や職場でどのように応用、展開していくか具体的な方法や計画について検討を行う。 |

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証更新

認証更新申請する研修の実施体制等 (届出事項)

| | |
|-------------------------|---|
| (1)研修の実施予定 | |
| 実施日 | ① 平成30年 9月 |
| | ② |
| | ③ |
| 開催場所 (会場) | ① 群馬医療福祉大学 前橋キャンパス |
| | ② |
| | ③ |
| (2)講師 | |
| 担当、氏名及び略歴 | <p>担当する講義等 疾患・障害等がある人への生活支援・連携 I 小林洋子 学校法人 昌賢学園 群馬医療福祉大学講師 (職歴) 医療法人刀陽会 綿貫病院 国立渋川病院 第3病棟勤務 (看護師・助産師) 学校法人 パース学園 群馬パース福祉専門学校 「介護福祉学科」 I部・II部 学校法人 昌賢学園 群馬医療福祉大学助教 (講師、研究活動等) 介護福祉士養成施設 介護担当教員特別研修会終了 (H8年1月12日) 介護支援専門員取得 (H13年3月16日) 主任指導者養成講習終了 (H16年9月26日) 医療的ケア教員講習会終了 (H25年2月15日) 介護福祉士国家試験実地試験委員 (H12年3月～H20年3月) 群馬県立吾妻高等学校「医療的ケア」喀痰吸引と経管栄養 群馬県立安中総合学園高等学校 「介護職員初任者研修」 群馬県立藤岡北高等学校 「介護職員初任者研修」 群馬県立高崎高等特別支援学校 「介護職員初任者研修」</p> <p>主な著書</p> <p>担当する講義等 疾患・障害等がある人への生活支援・連携 I・II 小林洋子 (学校法人 昌賢学園 群馬医療福祉大学) 履歴等は同上</p> |
| (3)実施体制 | |
| 研修の企画運営の組織 (担当部局・人員) | <p>認定介護福祉士養成委員会 (13名) 群馬県健康福祉部 介護高齢課 1名 (オブザーバー) 群馬県介護福祉士養成施設協会 1名 群馬県介護福祉士会 1名 群馬県老人福祉施設協議会 1名 群馬県老人保健施設協会 1名 群馬県地域密着型サービス 1名 連絡協議会</p> |

| | |
|--------------------|--|
| | 群馬医療福祉大学 2名 短期大学部(事務局) 2名 運営担当 群馬医療福祉大学 短期大学部 3名 ・研修委員会において各科目の教育目的や到達目標を確認し、担当講師と科目間の連関や留意点について共有する。 ・研修委員会のメンバーは研修の補助を行いつつ、研修内容の整合や新たに含むべき内容があるかなど、研修見直しの一助も担う |
| 研修の企画運営に関する諸規程 | 研修委員会設置要綱 |
| 研修管理責任者職名 | 群馬医療福祉大学 短期大学部 教授 |
| 研修管理責任者氏名 | 白井 幸久 |
| 機構問合せ先部署 | 群馬医療福祉大学 短期大学部 事務局 |
| 機構問合せ先担当者氏名 | 矢嶋 栄司 |
| 機構問合せ先電話番号/FAX | 電話 027-253-0294 / FAX 027-253-0294 |
| 機構問合せ先 e-mail アドレス | shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp |
| 受講問合せ先部署 | 群馬医療福祉大学 短期大学部 事務局 |
| 受講問合せ先担当者氏名 | 矢嶋 栄司 |
| 受講問合せ先電話番号/FAX | 電話 027-253-0294 / FAX 027-254-0294 |
| 受講問合せ先 e-mail アドレス | shimizu-k@shoken-gakuen.ac.jp |
| (4)研修履歴の管理体制 | |
| 受講者への付与単位部門 | 群馬医療福祉大学 短期大学部 事務局 |
| 受講履歴の管理方法 | *紙媒体及びデータによる台帳管理する。 *外付けディスクにバックアップデータを保管する。 *データの保存期間は10年間とし、その後は外付けディスクにてデータを保管する。 *個人情報の取り扱いにあたっては、法律を遵守する。 |
| 受講履歴の証明 | 全課程を修了した者には、認定介護福祉士養成委員会により修了証書を発行する。 |
| 管理責任者氏名 | 白井 幸久 |
| 管理担当者氏名 | 矢嶋 栄司 |